がんと食事

府中がんケアを考える会

令和5年6月25日(日) ル・シーニュ6階第3会議室

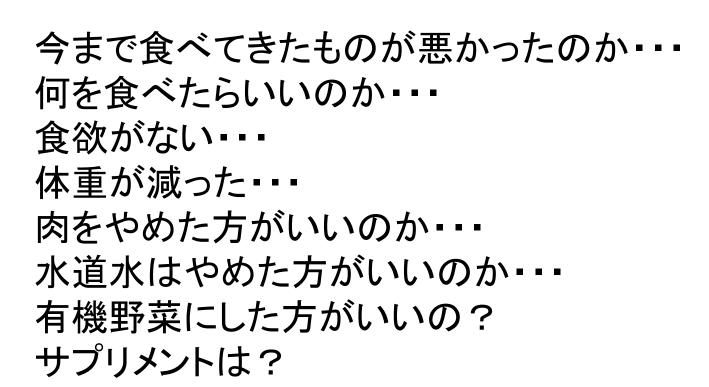


本日の内容

- •自己紹介
- ・がんの食事療法について (予防と治療中)



がんと診断されて





私が体験した食事療法

父ががんと診断されて

マクロビォティック(玄米菜食)

ゲルソン療法

御神水



私、お肉を 減らすように言 われたのよ

TVでは昔より 日本人は肉を 食べ過ぎてるってよ。

何が正しいの?

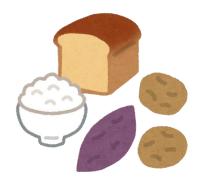
私は、もっとお 肉を 食べるように 言われたわ















私、お肉を 減らすように言 われたのよ



私は、もっとお 肉を 食べるように言 われたわ



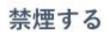


・HCV肝炎治療と肝がんに対して、本研究班の評価を"確実"と記載。



🕒 印刷

科学的根拠に根ざしたがん予防ガイドライン「日本人のためのがん予防法(5+1)」





確実に効果が 期待できるような 生活習慣 改善法



身体を動かす

節酒する







適正体重を維持する

食生活を 見直す





感染症の 検査を受ける

科学的根拠に根ざしたがん予防ガイドライン「日本人のためのがん予防法(5+1)」



科学的根拠に基づくがん予防: [国立がん研究センター がん情報サービス 一般の方へ] (ganjoho.jp)



飲酒量の目安(1日あたり純エタノール量 換算で23g程度)

お酒を飲む場合は、以下のいずれかの量までにとどめましょう。

- •日本酒 … 1合
- ビール大瓶(633ml) … 1本
- •焼酎・泡盛 … 原液で1合の2/3
- •ウィスキー・ブランデー … ダブル1杯
- •ワイン … グラス2杯程度

飲酒

【純エタノール量の換算】

お酒の量(ml)×[アルコール度数(%)÷100]×0.8

例)ビール中びん1本 500×[5÷100]×0.8=20(g)

ビール	5度(%)
日本酒	15度
焼酎	25度
ウィスキー	43度
ワイン	14度
缶チューハイ	5度

食生活を 見直す



(1) 減塩する

いくら、塩辛などの塩分濃度の高い食べ物をとる人は男女ともに胃がんのリスクが高いという結果も報告されています。

塩分を抑えること、すなわち減塩は、胃がんの予防 のみならず、高血圧、循環器疾患のリスクの低下に もつながります。

食塩摂取量の目安

日本人の食事摂取基準(厚生労働省策定「日本人の食事 摂取基準(2020年版)」)では、1日あたりの食塩摂取 量を**男性は7.5g未満、女性は6.5g未満**にすることを推奨 しています。塩辛い食品、食塩の摂取は最小限にするよ う心がけましょう。



科学的根拠に基づくがん予防: [国立がん研究センター がん情報サービス 一般の方へ] (ganjoho.jp)

食生活を 見直す



(2) 野菜と果物をとる

食道がんについては、野菜と果物をとることで、がんのリスクが低くなることが期待されます。また、胃がんおよび肺がんも、リスクが低くなる可能性があります。なお、食道がんは喫煙・飲酒との関連が強いことが分かっていますので、禁煙と節酒を心がけることがまず重要となります。野菜と果物をとることは、脳卒中や心筋梗塞をはじめとする生活習慣病の予防にもつながるので、できるだけ毎日意識的にとり、不足しないようにしましょう。

野菜と果物の摂取について

野菜や果物不足にならないようにしましょう。 厚生労働省策定「健康日本21(第二次)」では、1日あたり野菜を350gとることを目標としています。果物もあわせた目安としては、野菜を小鉢で5皿分と果物1皿分を食べることで、おおよそ400gが摂取できます



科学的根拠に基づくがん予防: [国立がん研究センター がん情報サービス 一般の方へ] (ganjoho.jp)

食生活を 見直す



(3) 熱い飲み物や食べ物は冷ましてから

飲み物や食べ物を熱いままとると、食道がんのみならず、食道炎のリスクを上げるという報告が数多くあります。飲み物や食べ物が熱い場合は、少し冷まし、口の中や食道の粘膜を傷つけないようにしましょう。それにより、食道のがんのリスクが低下することが期待できます。

熱い飲食物について

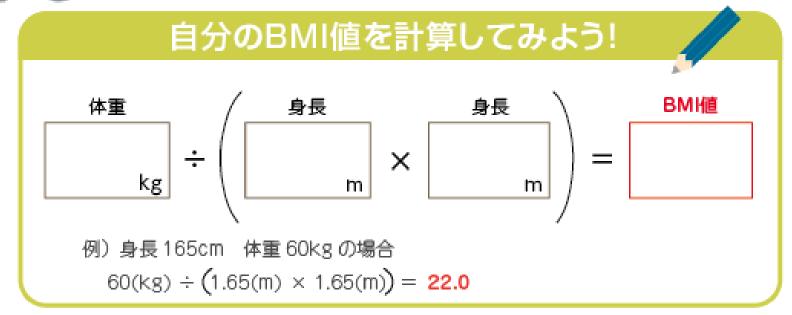
熱い飲み物や食べ物は、少し冷ましてから口 にするようにしましょう。



適正体重を維持する

(1) 太りすぎ、痩せすぎに注意する

これまでの研究から、肥満度の指標であるBMI*値が、 **男性は21.0~26.9**で、**女性は21.0~24.9**で、がん死 亡のリスクが低いといわれています。



世界がん研究基金(WCRF)と米国がん研究財団(AICR)による「食物・栄養・身体活動とがん予防」

- 1. 身体の肥満度:体重を正常範囲に保ち、正常範囲の中でもなるべく低い方が望ましい
- 2. 身体活動(運動):毎日の日常生活の一部として、つとめて身体を動かし活動的な生活をすること
- 3. 摂取制限や調整法を工夫する:エネルギー密度の高い食物の摂取を制限する。糖分の多い飲料を避ける
- 4. 大豆・大豆製品(豆腐など)や野菜の摂取がすすめられる:植物性の食品を主として食べること
- 5. 動物性食品:肉(牛肉、豚肉など)の摂取を控える。加工した肉はできるだけ避ける
- 6. アルコール性飲料:アルコール性飲料(酒類)の摂取を制限する
- 7. 保存・加工・調理: 塩分の摂取をせいげんすること。カビに汚染された穀類や豆類を避けること
- 8. 食事から必要な栄養をとることが推奨される:サプリメントに頼らず、食事のみから必要な栄養をとること
- 9. 授乳:母親は授乳をしっかり行う(乳児は授乳を受ける)
- 10. がんになった人に:がん予防の勧告にしたがうこと

図1 がん悪液質のステージと治療時期

又は骨格筋減少

不応性悪液質 前悪液質 悪液質 Pre-cachexia Cachexia Refractory cachexia ・PS不良 (3-4) ・食欲不振 ・体重<5%減 or ・抗がん治療に不応 体重<5%減 体重<2%減 ・余命<3ヶ月 +BMI<20

死

栄養介入によりがん悪液質の進行を遅らせる

がんの病態が経口摂取量や栄養に及ぼす影響

がんによる要因	がん種・病態	食事摂取・栄養への影響
がん自体が産生・分泌する炎症性サイトカイン	・種々のホルモン、神経伝達物質、ペプチドの産生による炎症性サイトカイン放出、代謝異常	・腫瘍量の増加に伴う食事摂取量の 減少、体重減少、タンパク室分解の 亢進
消化管の狭窄・閉塞	・食道がん、胃噴門部がん ・胃幽門狭窄・閉塞 ・小腸・大腸関連	・嚥下困難、唾液の嘔吐・腹部膨満感、食後背部痛・腹部膨満感、便臭を伴う嘔吐
消化液の分泌障害	・胆管がん、膵頭部がんによる胆汁分泌障害・浸潤性膵管がんによる膵外分泌障害	・脂肪の消化吸収障害・消化・吸収能の低下
出血•体液喪失	・胃がん、大腸がんにより主要の組織壊死とともに血 管が破綻	・吐血(上部消化管出血)・血便(下部消化管出血)・鉄欠乏性貧血、低タンパク血症
腹膜転移•後腹膜浸潤	・播種性腹膜転移 ・膵がんによる後腹膜への神経叢への浸潤	・腹水貯留、腹部膨満・激痛、経口摂取量の減少
病的交通•連絡	・大腸がんによる消化管皮膚瘻	消化管内容の漏出、経口摂取量の 減少

食事

1生命維持のため

2活力・幸福感

3 食文化·仲間意識

免疫力・体力維持・向上





その情報は誰にとって正しいのか?





おわりに

しかし食物により病気になることも・・・

食事の事で困ったら、管理栄養士に相談を。



参考文献

・国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

「科学的根拠に基づくがん予防」

- ・国立がん研究予研究センター 「大腸がんリスクチェック」
- ・女子栄養大学出版 「がん研有明病院の大腸がん治療に向き合う食事」
- ・国立がん研究センター 社会と健康研究センター 「がん予防 ~がんにならずに健康寿命を延ばす!」
- がん治療と食事医学書院
- ・がん患者の代謝と栄養管理 医療ジャーナル社
- ・がん栄養療法ガイドブック メディカルレビュー社

